

## 平成29年度陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について

(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

水産総合研究所では2017年5月17日、18日に、青森県陸奥湾の8調査点で試験船青鵬丸(65トン)のオッタートロール海底曳によるマダラ稚魚の分布密度調査を行いましたので、結果をお知らせします。

マダラ稚魚はSt.3を除く各地点で採捕され(図1)、その分布密度は湾口部のSt.1で475個体/1,000m<sup>2</sup>と最も高く、次いで中央部のSt.5で334個体/1,000m<sup>2</sup>、St.6で122個体/1,000m<sup>2</sup>でした。東部(St.7、8)や西側(St.2、3、4)では密度の高い地点はありませんでした(図1)。

マダラ以外の魚種では、各地点でカナガシラやアジ・イワシ類などが数個体～約200個体/地点採捕されました(表2)。

陸奥湾ではマダラ稚魚の分布密度が高ければ(低ければ)、4～5年後の陸奥湾での漁況が良くなる(悪くなる)傾向があります。青鵬丸による陸奥湾マダラ稚魚分布調査は今年から開始したのですが、今後も調査を継続し、数年後のマダラ漁況を見通す指標にできるよう取り組んでいきます。

体長2mm	St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	St.6	St.7	St.8
30								
32								
34								4
36		1						1
38								4
40		20		23	58	13	2	16
42	53	15		81	29	38	7	35
44	35	28		58	145	90	17	41
46	248	53		203	667	179	52	36
48	301	46		261	841	320	72	27
50	938	51		261	1,392	602	110	26
52	1,151	41		186	1,450	410	105	24
54	1,292	35		52	754	499	55	22
56	850	6		23	319	307	50	18
58	248	6		6	29	38	7	7
60	159	2			87	51	15	5
62	35				29	13	5	2
64		2						1
66		1						
68								
70								
72								
74		1		6				
76								
78								
80								
計	5,310	308	0	1,160	5,800	2,560	498	269

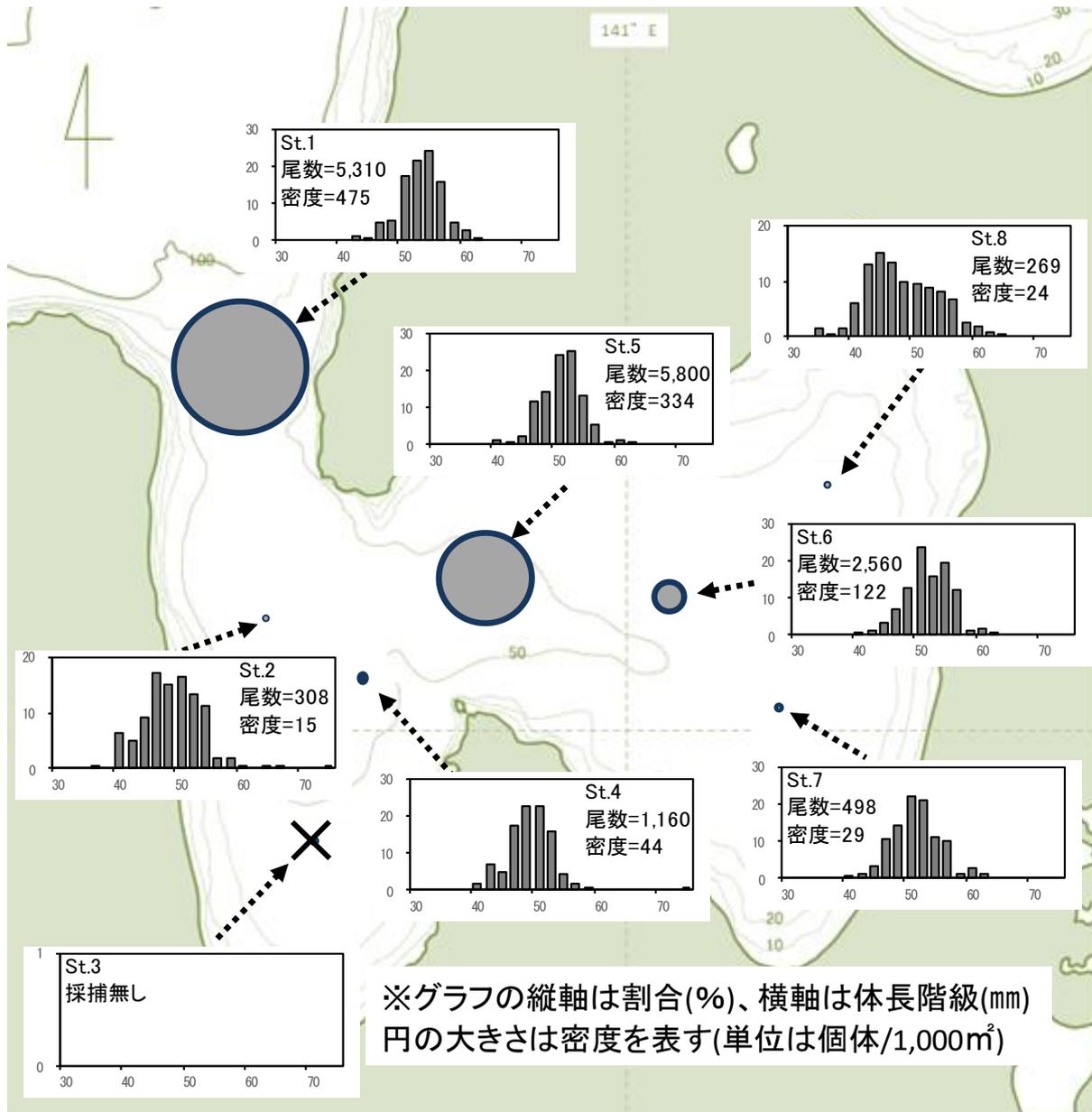


図1 陸奥湾マダラ稚魚分布密度と体長組成結果 (試験船青鵬丸によるオッタートロール)

表2 マダラ以外の漁獲物 単位: 個体

魚種	St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	St.6	St.7	St.8
カナガシラ	37	9	13	6	29	15	28	38
マアジ	7		198	1	6			
マイワシ			86	1	24		1	
カタクチイワシ	1	28	1	120	37	50	84	4
ハタハタ稚魚	25	5		87				8
その他魚類	10	24	67	18	22	16	10	4